

三宅島の現状（その57）

平成15年6月25日
三宅村災害対策本部

【気象及び火山活動状況】6月11日から6月24日

今期間の気象状況は、梅雨らしく曇った天気が多く、15日には台風6号が発生し20日には温帯低気圧に変化し島に直接の影響はありませんでしたが、台風に伴う雨の影響を受け、17・18日には天気が崩れ、島内各地で30ミリ前後の雨量を観測しました。

火山の活動状況は雲のため観測不能な日が多かったものの、200～500m前後の白色の噴煙が確認されました。

火山ガス（So₂）の放出量調査は18日に実施され7400～5200トン/日を観測しました。

島内のガス濃度（So₂）は、11日伊ヶ谷で2.9ppm、20日に逢の浜で3.6ppm、三宅島空港で6.9ppm（いずれも1時間値）を観測しました。
（東京都環境局観測）

【火山ガスの健康影響に関する説明会】

6月期の滞在型帰宅の実施にあわせ、活動火山対策避難施設で滞在型帰宅者と三宅村公民館では島内作業員を対象に、慶應義塾大学医学部の先生による「火山ガスの健康影響に関する説明会」を実施して参りました。6月7日から9日、14日から16日、21日から23日に行った3回の説明会の合計参加者は196人でした。

【三宅島の現状】

三宅島は、本格的な梅雨入りを迎えてぐずついた天気の日が多くなり、雄山も雲がかかり山頂まで見える日は、ほとんどなくなってしまいました。また、この時期は南西の風が吹くことが多く、風下にあたる三池地区から島下地区では火山ガス濃度が上がることがあり、帰宅事業などでこの地区に入った方は、日によっては、ガスマスクをつけて作業を行うこともありました。

島内では、春先に池や水たまりに多く見られた、オタマジャクシがカエルになり、道沿いのあちこちで目にするようになりました。

【滞在型及び日帰り帰宅の実施状況】

・滞在型帰宅事業の実績

6月14日から18日まで	神着地区	参加者87名
6月21日から24日まで	阿古地区	参加者64名

・日帰り帰宅事業の実績

6月12日	坪田地区	参加者87名
6月19日	伊豆・伊ヶ谷地区	天候不良の為中止

- A** 現時点で長期的影響の目安に達している観測点
- B** 現時点で長期的影響の目安に概ね達しているが、今後の推移を注意深く見守る必要がある観測点
- C** 現時点で長期的影響の目安に達していない観測点
- 現時点で長期的影響の目安に達している観測点であるが、高感受性者が注意を要する月平均時間(分)

伊ヶ谷老人福祉館		
長期	年平均値(ppm)	0.04
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	7.9
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	2,574
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	690
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	81
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	2

三宅支庁		
長期	年平均値(ppm)	0.01
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	2.3
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	676
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	103
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	2
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	0

逢の浜温泉		
長期	年平均値(ppm)	0.14
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	17.1
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	2,281
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	427
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	143
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	16

三池消防器具置場		
長期	年平均値(ppm)	0.28
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	27.7
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	8,413
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	940
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	242
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	47

阿古港船客待合所		
長期	年平均値(ppm)	0.04
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	8.4
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	2,460
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	402
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	39
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	0

三宅村役場		
長期	年平均値(ppm)	0.28
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	21.9
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	7,900
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	1,173
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	269
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	48

薄木生コン工場		
長期	年平均値(ppm)	0.12
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	15.4
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	4,137
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	540
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	90
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	2

三宅島空港		
長期	年平均値(ppm)	0.17
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	16.2
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	5,578
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	782
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	130
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	23

アカッコ館		
長期	年平均値(ppm)	0.03
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	5.5
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	405
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	113
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	13
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	0

坪田公民館		
長期	年平均値(ppm)	0.02
	1時間値0.1ppm以上の割合(%)	2.7
短期	レベル1(0.2ppm超)月平均時間(分)	678
	レベル2(0.6ppm超)月平均時間(分)	70
	レベル3(2ppm超)月平均時間(分)	15
	レベル4(5ppm超)月平均時間(分)	1

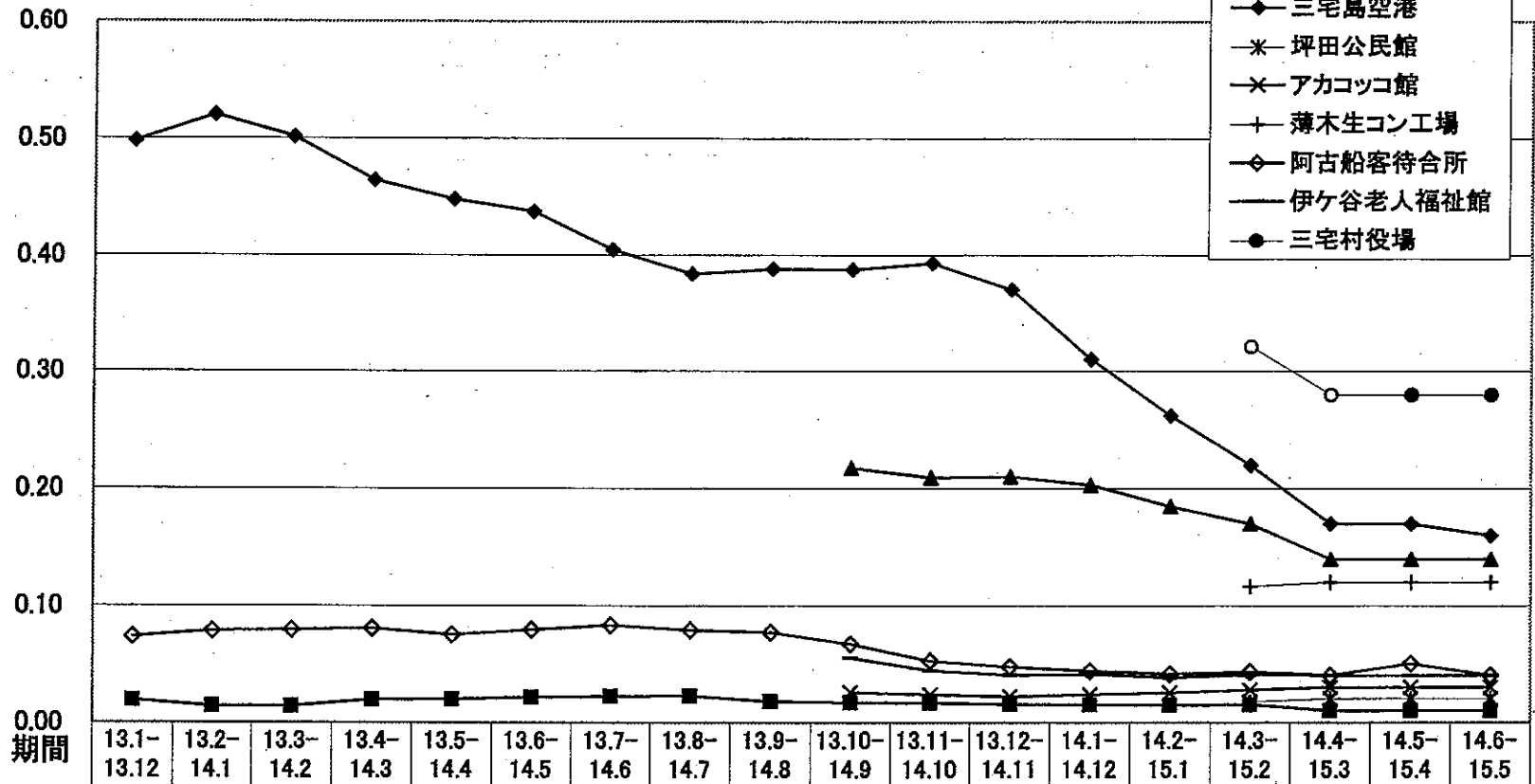
*データは平成14年6月1日から平成15年5月30日まで。

二酸化硫黄濃度の目安に照らした各観測点の状況

濃度(ppm)

各地点における年平均値の推移

- 三宅支庁
- ▲ 逢の浜温泉
- 三池消防器具置場
- ◆ 三宅島空港
- * 坪田公民館
- × アカコッコ館
- + 薄木生コン工場
- ◇ 阿古船客待合所
- 伊ヶ谷老人福祉館
- 三宅村役場



期間	13.1-13.12	13.2-14.1	13.3-14.2	13.4-14.3	13.5-14.4	13.6-14.5	13.7-14.6	13.8-14.7	13.9-14.8	13.10-14.9	13.11-14.10	13.12-14.11	14.1-14.12	14.2-15.1	14.3-15.2	14.4-15.3	14.5-15.4	14.6-15.5
三宅支庁	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.02	0.01	0.01	0.01
逢の浜温泉										0.22	0.21	0.21	0.20	0.18	0.17	0.14	0.14	0.14
三池消防器具置場															0.32	0.28	0.28	0.28
三宅島空港	0.50	0.52	0.50	0.46	0.45	0.44	0.40	0.38	0.39	0.39	0.39	0.37	0.31	0.26	0.22	0.17	0.17	0.16
坪田公民館															0.02	0.02	0.02	0.02
アカコッコ館										0.03	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
薄木生コン工場															0.12	0.12	0.12	0.12
阿古船客待合所	0.07	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.07	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.05	0.04
伊ヶ谷老人福祉館										0.06	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
三宅村役場																	0.28	0.28

七島学生寮廃止後の“新制度”のお知らせ！

謹啓、島しょ住民の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃、学生寮の運営につきまして、格別のご支援ご高配を賜り心から厚く御礼申し上げます。

当財団は、世田谷区代田に七島学生寮（1室2名の男子寮）を昭和29年に開寮以来、約50年余管理・運営を実施してまいりましたが、近年の寮生の大幅な減少による寮費収入の減、基本財産の利息収入の減収等、財政運営面で危機的状況に陥り、基本財産の一部を取り崩して、緊急避難的な経営をしてまいりました。

このような状況から、平成11年2月に「学生寮検討委員会」が設置され、学生寮の在り方、学生寮の運営について、約1年間検討が行われ、最も公平な島外進学者に対する支援策として、「民間学生会館等入寮保証金立替制度」を導入し、現在の学生寮は平成16年3月31日をもって、財団を解散し学生寮を廃止することが、平成12年5月の理事会・評議員会で承認されました。詳細の説明については、平成12年9月の各町村の広報・折り込み「七島学生寮“廃止”のお知らせ」でご報告のとおりです。

このような経過を経て、寮廃止後の平成16年度以降の新制度・島外進学者に対する支援策について、検討を重ねた結果、下記のとおり運用方針を策定いたしましたので、ここに謹んでお知らせいたします。今後とも新制度の運用等につきまして、よろしくご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

謹白

平成15年7月1日

財団法人七島学生寮

記

○ 新制度「民間学生会館等入寮保証金立替制度」について

- 1 新制度は、東京都島嶼町村一部事務組合（以下「組合」という。）が、財団の残余財産の寄付を受け、平成16年4月1日より管理・運用・運営していきます。
- 2 島外進学者とは、島しょ町村の義務教育修了者のうち、島外に進学する方を言います。
- 3 組合は、学生寮の代替措置制度の趣旨を踏まえ、「寮長・寮母の存在」、「朝夕2食の給食」、「セキュリティ」、「相当規模の学生会館運営」等、一定の基準を設け信頼性・信用度の高い学生寮施設業者と協定を結び、入寮施設の確保に努めます。
- 4 この制度の利用者は、島外進学者で、島しょ町村長に推薦された方です。
- 5 入寮保証金の立替とは、島外進学者が学生会館等に入寮する際に必要な入寮保証金について、組合が利用者に代わって協定を結んだ学生寮施設業者に立替払いすることです。

※ 裏面に、平成16年度新制度利用希望者のための、学生会館等の施設見学・説明会を開催する、募集案内がありますので、ご一読ください。

今年も夏花『ポチュラカ』が楽しめそう

げんき農場の夏の景色として楽しんでいる「ポチュラカ」(学名:はなすべりひゆ)は、毎年、滝島先生のご厚意により提供を受けた種苗によるものです。先生は、東京都の農業普及事業に携わり、在任中には三宅島へも来島されたことがあります。



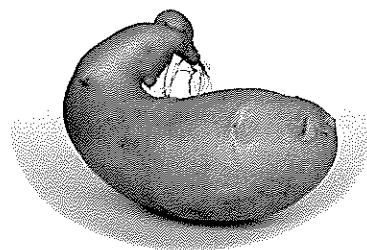
初年度の満開の様子

今年も5月21日、御高齢にもかかわらず苗持参で来場され、育成した新品種を含め、多くの苗を提供して下さいました。早速、場内に植付けしましたが、今年は農場にどんな彩りを添えてくれるでしょうか。



今回頂いた苗

今年の苗の中に、野菜として食べられる品種があることが判りました。この味も楽しみです。



昨年の「げんきムーミン」に続き、メークイン畑からのマスコット第2弾でした。

平成十五年六月某日
たまちんりしき姿をうけた写真

「こげんき農場では静かにその姿を見守って行きたい」と、副農場長の今井さんは目を細めながら話っていた。

今年二月に横浜市西区で住民登録を済ませながら、相変わらず放浪癖のなくならない「たまちゃん」だが、何を思ったか、今度は八王子の三宅島「げんき農場」にその姿を現した。



来場者紹介

【見学等】

- ・国際研修センター職員 村田あつしさん
- ・あじさいの里 水原三夫さん、北村淑子さん
- ・福澤信哉さん(北区桐ヶ丘在住:伊豆)
- ・渋谷教育委員会 和田秀穂さん
- ・渋谷区教育委員会 遠藤輝喜さん
- ・千駄ヶ谷社会教育館 小島二郎さん
- ・瀧島さん 外2名
- ・人文学博士・方言研究家 山口幸洋さんと奥様

【取材等】

- ・山田和快さん(村議会議員)
- ・佐藤俊也さん(北区桐ヶ丘在住:神着)
- ・Tokyo MXテレビ 大崎さん外2名
- ・読売新聞記者 末吉光太郎さん
- ・NHK首都圏放送センター 藤森さん外2名

(順不同)

「げんき農場へ来るには」

JR八王子駅北口『12番』乗り場、または京王八王子駅『4番』乗り場より、『稲荷坂下』バス停で下車徒歩約10分。「ひよどり山中学校」のすぐそばです。

※両乗り場とも「純心女子学園」行きは2系統ありますので、「稲荷坂下」を通るか乗車の際にお尋ねください。

三宅島「げんき農場」だよりのバックナンバーを見ることが出来る、三宅村のホームページ「村民の広場」のアドレスが下記のように変わりました。「げんき農場情報」からご覧下さい。

「村民の広場」アドレス http://www.miyakemura.com/hiroba_index.htm

三宅島「げんき農場」だより

発行元 三宅島「げんき農場」
所在地 八王子市宇津木町236-1
Tel&Fax : 0426 - 27 - 4355
e-mail : genki-farm@nifty.com

農場の近況

げんき農場では6月中旬にサツマイモの苗を植え付けし、予定した春の植付け作業は全て終了しました。

今年は場内の未利用地を可能な限り開墾した結果、圃場面積は2ヘクタール以上に拡がりました。サトイモ、サツマイモ、アシタバ、馬鈴薯(ジャガイモ)などの他、ウコン、スイカ、ミョウガ、各種の野菜類が植えられ、収穫の時期を待っています。

また、三宅島特産の赤芽サトイモについては、これまでより多くの面積を費やし、帰島に向けたさらなる種苗の確保を目指します。

麦の収穫

緑色の麦畑がいつの間にか金色に変化し、収穫期を迎えました。6月中旬、大麦、小麦の順で刈り取り、脱穀と調整作業を終えました。

久しぶりの本格的な農作業に、場内は活気づきました。



アシタバの収穫

今年、最初の収穫は6月9日、翌日に都民広場で行なわれた、「東京愛ランドフェア」へ向けたものでした。直前まで、まとまった量の収穫が出来るか心配しましたが、何とか予定の量を出荷することが出来ました。

その後は順調に生育しており、今後の収穫にも期待出来そうです。



馬鈴薯の収穫

農場の一角に栽培した馬鈴薯も収穫期を迎えました。作柄は良好で掘り出された「新じゃが」はみずみずしく、見るからに美味しそうです。場員にとって、収穫の喜びは格別なものがあります。

早速、地元八王子の福祉施設や、支援を頂いている関係各所に配布させていただきました。



自然との共生

最近、帰島した多くの人から毛虫が大発生している話を聞きます。

昭和58年噴火の後、大量に降り積もった灰を除去した坪田地区にカラムシ(繊維植物)が繁茂し、その葉に『フクラスズメ』が大量発生しました。特に大路池の林道際は凄まじい量でした。この虫は、人が近づいたり葉に触れると、一斉に頭を振り威嚇しているような不思議な音を発します。

その翌年、同じく坪田地区に『マイマイガ』が発生し、“アカメガシワ”、“ヤシャブシ”、“フェニックス”等の葉が食害にあいました。『マイマイガ』の幼虫も大型の毛虫で、都道を這い回る虫の防除が行なわれました。7月上旬、突然薄茶色の蛾が大量に飛び回ると時を同じくして、毛虫は姿を消しました。最近発生している虫もこの『マイマイガ』だと思われます。とすると、今月上旬にはいなくなるでしょう。

さらにその数年後には、伊豆地区の竹やぶ(アズマネザサ)に『タケノホソクロバ』が大発生し、このときも農道・村道沿いで防除作業が行なわれました。

三宅島の将来像として掲げられている『人と自然にやさしい健康で豊かな村』に思いを馳せると、色々な虫達とも共生し、自然のサイクルを静かに受け入れることも必要なのでしょう。げんき農場でも毎年多くの虫と静かな闘いを繰り返していますが、豊かな島の自然とそこでの生活を懐かしく思い起こさせる仕事のひとつです。

農場では探すつもりがなくても、様々な虫(幼虫)が目にとまります。成虫の写真がないため今回は掲載しませんが、ヨトウムシはその代表選手でしょう。紙面では幼虫の写真の掲載を自粛したので、興味を持たれた方は、昆虫図鑑やインターネットで調べてみてください。直接来場して頂くのが一番手っ取り早いのですが…。

自然の訪問者たち

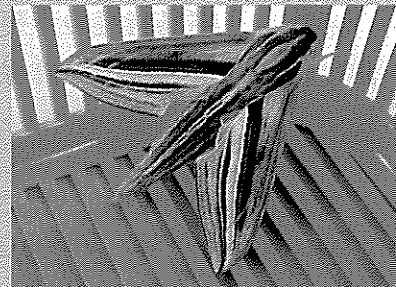
げんき農場を訪れる生き物は勿論、虫ばかりではありません。野鳥では“ヒヨドリ”、“カワラヒワ”、“ムクドリ”、“シジュウカラ”などが常連客です。また“キジ”と“カルガモ”の夫婦も近くにお住まいのようで、時々訪ねて来てくれます。

三宅島では見られない「ヘビ」が現れたときには、農場に悲鳴が上がります。最近「新型肝炎」の感染源として話題になった「ハクビシン」もいるようですが、まだ姿を見たことはありません。その他、トカゲや大型のカエルも時折見かけることができます。勿論、モグラ君もいます。

これらの生き物のうち、私たちと闘いを繰り返しているのは、ごくわずかです。中でも団体行動で作物を荒らす“カラス”や“スズメ”に対しては、防鳥網を設けるなどの対策を講じる必要があります。農場の作業でも重要なもののひとつとなっています。この闘いの模様はいずれご報告しようと考えています。



人参科である明日葉は、人参の害虫である“キアゲハ”の幼虫に食べられてしまいます。



里芋畑では“スズメ蛾”が多く見られます。特に“セスジスズメ”の幼虫は大型で、農場でも葉巻大の幼虫が捕獲出来ます。

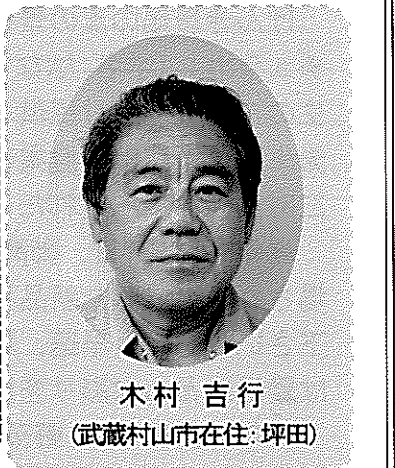


“スズメ蛾”の一種、“オオスカシバ”です。これも大型で、サツマイモの害虫です。

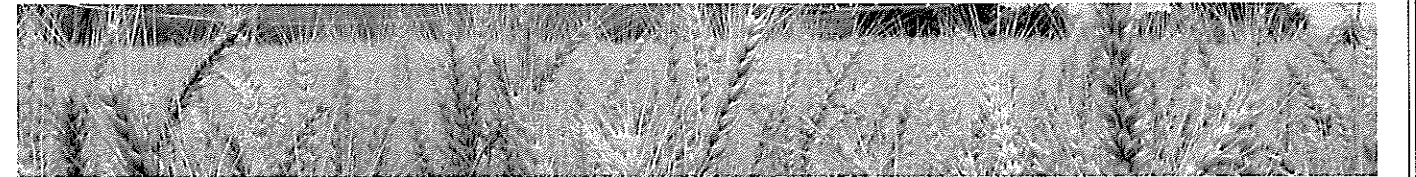
場員の声

4月より「げんき農場」でお世話になっています。早いもので避難生活も3年近くになろうとしています。これまで、慣れない仕事を色々してきました。早く三宅島に帰って自分の店(食堂)を再開したいのですが、まだ帰島できる気配はないようです。

子供達2人(長女13才、長男10才)のこともあり、離れ離れの生活は大変難しいです。私が子供の頃は、土日になるといつも畑仕事をさせていました。懐かしい思いをしながら「げんき農場」で夫婦2人働いています。島に帰る日まで皆さんと一緒に出来る限り頑張ります。



木村 吉行
(武蔵村山市在住:坪田)



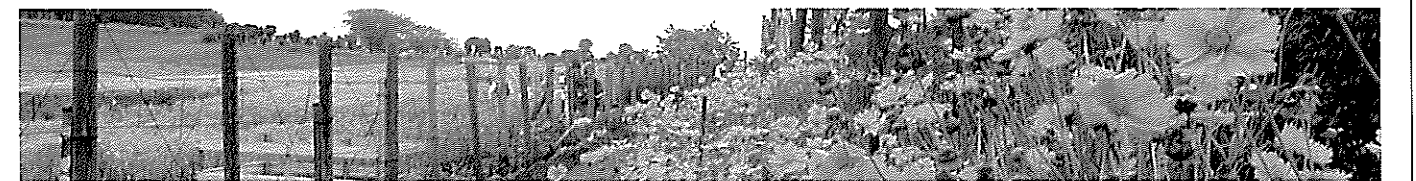
井口 千佳子
(板橋区在住:神着)

少々トロい私。考えて考えて、考えすぎて応募。そして採用。と言うのも、「あなた、ゆめ農園だったら通勤は楽し仕事はきれいだし！ だけどガンバンナー」と、幾人かの方にその声を掛けて頂きました。とても嬉しかったです。

なんだかんだ言ってもナガーも感じる2年8ヶ月でした。でも、やはりミジカイ、ミジカイ、ほんとにミジカイ2年8ヶ月でした。そして、今は本当に！これで良かったんだと思っています。

これからも頑張ります。宜しくお願い致します。

「初出勤 京王線での 花見かな」



開園以来、「げんき農場」で働かせて頂いております。避難当初は働くところもなく、毎日毎日物思いにふける日々を送っていました。そんなとき「げんき農場」ができ、仕事をする機会を得ることができました。何より、三宅島の人達との会話も楽しみの一つとなりました。

今、農場は緑に包まれています。里芋、じゃがいも、トウモロコシ、明日葉など、数え切れないほどの種類の野菜が、一日ごとに緑を濃くしています。また、畑の周りに植えた花が彩りを加え、散歩する人達の目を楽しませています。

三宅島に帰った折には、母の畑の草取りくらいは手伝えるかなと、ここで学んだ畑仕事をいつか役に立たせたいな、とぼんやり考えています。



沖山 和美
(武蔵村山市在住:阿古)